

令和6年度 東部・北部・気仙沼管内 小・中学校主幹教諭(養護)の取組について

「緊急時に適切な対応をするために」 ～「救命アクションカード」を活用した組織的に動く危機管理体制づくり～

Ⅰ 概要

平成 30 年度に、養護教諭の専門性を高めることを目的として東部教育事務所管内小・中学校の養護教諭を対象に意識調査を実施した。その結果、救急処置に関する悩みが多くあげられた。また、これまでの事例から「養護教諭不在時の救急対応が不十分」「緊急時、誰がどのように動くか」といった不安もあがり、各校で緊急時対応のマニュアルは整備されていても、実際の場面で活かすためには、職員研修の積み重ねが必要であることが分かった。

そこで、令和元年度に学校で児童生徒や教職員等の生命にかかわる緊急事案が発生した場合に、現場にいる教職員が適切・迅速に対応するための行動内容を示した「救命アクションカード」を消防署や関係機関から助言を受け作成した。令和 2 年度からは「救命アクションカード」を活用した研修モデル案を作成し、主幹教諭(養護)が中心となり、各校で職員研修を実施するとともに、県及び管内の各研修会等で講師を務め、取組の周知・普及を行ってきた。

今後も各校での「救命アクションカード」を活用した対応訓練を、学校の実情に合わせて実践的・効果的な内容に自校化したり、児童生徒に向けた授業での活用を図ったりするなど、さらなる普及に取り組みたい。また、主幹教諭(養護)の配置が東部・北部・気仙沼管内と広がっていることを踏まえ、県内及び県外に「救命アクションカード」の活用を浸透させ危機管理体制づくりに寄与したい。

2 経過

年度	取組及び人員	主な内容
平成 30 年度	養護教諭の職務についての意識調査 主幹教諭(養護) 3 名 (東部教育事務所管内 3 名)	◆主幹教諭(養護)会議 (年 4 回) ①養護教諭が抱える課題について ②アンケート作成、実施 ③集計及び考察 ⇒次年度に向けて ・アクションカードを用いた危機管理体制を整備するため 先行実践等を検討。
令和元年度	アクションカードの完成と職員研修案の作成 主幹教諭(養護) 4 名 (東部教育事務所管内 4 名)	◆主幹教諭(養護)会議 (年 4 回) ①カードの意義や救急対応の課題について検討 ②カードの内容について消防署の助言も受けながら 検討 ③アクションカードの完成とカードを活用した職員研修案 を検討 ◆主幹教諭(養護)研修会

		「学校現場で起こりやすい事故やけがの応急手当法について」 講師 石巻消防署西分署 消防司令補 庄子 実 氏 / 消防士 横田 賢也 氏 ⇒カードの名称を「救命アクションカード」と決定
令和 2 年度	「救命アクションカード」を活用した職員研修のモデル案作成 主幹教諭(養護) 7 名 (東部教育事務所管内 6 名) (北部教育事務所管内 1 名)	◆主幹教諭(養護)会議 (年 2 回) ①職員研修のモデル案を作成 ②モデル案を先行実施し、事後検討 ☆ 5/27 石巻市立二俣小学校 ☆ 8/18 東松島市立鳴瀬未来中学校 ☆ 11/12 東松島市立矢本第二中学校 ⇒職員研修モデル案の名称を「緊急時対応訓練」と決定 ③東部教育事務所管内へ周知 「救命アクションカード」及び「緊急時対応訓練」を東部教育事務所指導班日より及び東部教育事務所ホームページに掲載 ◆主幹教諭(養護)研修会 「感染症対策について」 講師: 石巻・登米保健所 所長 鈴木 陽 氏
令和 3 年度	救命アクションカードを活用した職員研修・訓練モデル案の更新及び各研修会での周知 主幹教諭(養護) 8 名 (東部教育事務所管内 7 名) (北部教育事務所管内 1 名)	◆主幹教諭(養護)会議 (年 3 回) ①「救命アクションカード」を活用した緊急時の対応訓練や説明用資料の検討 ②「救命アクションカード」を活用した職員研修の実施及び検討(別添資料) ③緊急時の対応訓練モデル案の作成及び更新(図上訓練等) ◆主幹教諭(養護)研修会 「がん教育・学校と病院」 講師 石巻赤十字病院 副院長 鈴木 聡 氏 ◆県学校安全教育指導者研修会(2021.5.28) ◆石巻市防災主任研修会(2021.9.5) ◆石巻地区学校保健会研修会(2022.1.15)
令和 4 年度	緊急時対応訓練モデルの充実・発展に向けてアップデートポイントのまとめ及び児童生徒	◆第 74 回宮城県学校保健・安全研究大会 (動画配信 2022.11.24~12.1) ◆登米市教育研究会 保健教育部一斉研修会

	の授業や児童会活動での実践 主幹教諭(養護) 10 名 (東部教育事務所管内 7 名) (北部教育事務所管内 2 名) (気仙沼教育事務所管内 1 名)	(2022.10.7) ◆東松島市学校保健会保健主事研修会(2022.12.1) 実践事例 ◆小学校 5・6 年学級活動「安全安心な学校生活」 ◆中学校 2 年保健体育「傷害の防止」 ◆小学校児童会活動 ※緊急時の対応訓練モデルの実践事例は別紙資料を参照
令和 5 年度	救命アクションカードを活用した職員研修の検討と各研修会での周知・普及 主幹教諭(養護) 10 名 (東部教育事務所管内 6 名) (北部教育事務所管内 3 名) (気仙沼教育事務所管内 1 名)	◆主幹教諭(養護)会議 (年 3 回) 2 つのグループに分かれて研修・研鑽 「若い先生のための学校保健 OJT 資料」の作成 ・給食編、清掃編 「主幹教諭(養護)の職務について」 ※救命アクションカードを活用した職員研修については、「宮城県学校事故防止事例集」作成メンバーとして取り組む ◆主幹教諭(養護)研修会 「児童虐待に係る学校と関係機関の連携について」 講師:東部児童相談所 家庭支援第一般 次長(班長) 大谷 信 氏 ◆東松島市学校保健会総会 (2023.5.2) ◆気仙沼市防災主任者研修会 (2023.6.26) ◆登米市教育研究会 保健教育部一斉研修会 (2023.10.6) ◆北部教育研究会保健教育部会栗原ブロック研修会 (2023.11.2) ◆学校安全実践力向上サポート事業 大阪府立学校養護教諭研修会 (2023.11.29) ◆安全担当主幹教諭研修会 (2023.12.7)
令和 6 年度	救命アクションカードを活用した職員研修の各研修会での周知・普及 ホームページ資料の更新	◆主幹教諭(養護)会議 (年 3 回) 「若い先生のための学校保健 OJT 資料」の作成 ・学校保健編、学校安全編

	主幹教諭(養護) 10 名 (東部教育事務所管内 6 名) (北部教育事務所管内 3 名) (気仙沼教育事務所管内 1 名)	◆主幹教諭(養護)研修会 「不登校児童生徒の支援について」 講師 東部教育事務所 教育相談コーディネーター 亀井 清浩 氏 ◆三重県津市研究会中ブロック健康教育部会研修会 (2024.8.21 オンライン) ◆北部教育研究会保健教育部会 大崎東部ブロック 研修会 (2024.11.1)」 ◆東山書房『健康教室』2024.11 月増刊号「学校の危機 管理と緊急時対応」実践紹介 ◆「救命アクションカード」に係る他都道府県からの問合せ 多数
--	--	---

緊急時の適切な対応のために
～「救命アクションカード」を活用した危機管理体制づくり～

東部・北部・気仙沼教育事務所管内小中学校 主幹教諭(養護)

1 はじめに

平成 30 年度に養護教諭の専門性を高めることを目的として、東部教育事務所管内小・中学校の養護教諭を対象に課題調査を実施した。その結果、特に経験 10 年未満の養護教諭が救急処置や救急車要請など緊急時の対応に不安を感じていることが浮き彫りになった。養護教諭が感じる不安は、緊急時、学校が組織的に対応する際の不安を意味することから、養護教諭や管理職の在校・不在によらず対応の漏れやタイムロスのない救急搬送を行うため「救命アクションカード」を作成し、これを活用した対応訓練のモデル案を作成した。

2 「救命アクションカード」及び対応訓練モデル案作成の経緯

学校現場で生命にかかわる緊急事態が発生した場合に、一目で行動内容が分かり、119 番通報や家庭連絡などを教職員が冷静に対応できるようになることを念頭に置き、関係機関等の助言を受けながら令和元年度に「救命アクションカード」を作成した。

令和 2 年度には「救命アクションカード」を活用した校内研修モデル案を作成し、3 校において実施した。研修を受けた教職員からは「瞬時にどのように対応すべきなのか、頭では分かっているように思っているように対応できないことを体感した。」「心肺蘇生法と同じように毎年続けていくことでスムーズに対応できるようになると思った。」など同様の意見が多数あった。また、実際に動いてみることで自校の課題に気づいたり、研修の振り返りでは改善策について活発な意見交換になったりするなど、研修を行うことの必要性を感じた。

3 「救命アクションカード」について

本カードは 3 種類 9 枚で構成され、3 つのポイントがある。一つ目の「第一発見者カード」は、教職員それぞれが所持できるように名刺サイズとし、いつでも対応について確認することができるようにしている。二つ目は「『緊急です』カード」で、すべての教室に掲示しておき、事故発生現場に教職員が一人であっても児童生徒に近くの大人に届けさせることでその緊急度を知らせることができるようにした。三つ目は 7 枚の「現場対応カード」で役割を 7 つに分け、表面に救命行動、裏面に具体的な行動内容を示している。これらは、役割分担を明確にすることで対応の漏れを防ぎ、行動内容を示すことで冷静な対応ができるようにしている。

4 職員研修(対応訓練案)について

「救命アクションカード」は、緊急時に冷静な対応を補助するツールであるが、カードだけですべてを担えるわけではない。教職員が緊急時に救命行動を連携できる必要がある。多くの教職員は毎年救急救命講習を受けており、心肺蘇生法は自信を持って行うことができる。しかし、学校で発生する災害は、心肺蘇生法だけでは完結しない。倒れて意識のない児童生徒あるいは教職員を発見した場合にどのような連携をするのかは、実際に行動してみなければイメージすることは難しい。事例を基に場面設定し、シミュレーション訓練をすることで、カードを有効活用できることが分かってきた。

(1) 学校における事故対応の重要性 (視聴、説明)

「体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKA モデル」の PR 映像を視聴し、突然死は日常に潜む災害であることを認識させ、死戦期呼吸について確認する。また、「学校事故対応に関する指針」では、職員一人一人に、状況に応じた的確な判断力や機敏な行動が求められ、管理職等が不在の場合でも組織的な対応が行えるという資質が求められていること、生命に関する緊急事案は、管理職への報告よりも救命処置を優先させることが示されていることを確認する。

(2) 演習(実技訓練、図上訓練)

演習で取り上げる事例は、管理職と養護教諭不在を前提に、日本スポーツ振興センターのデータや過去の自校の事例等で場面設定し、教職員の危機意識を高める。

実技訓練は、2 つのグループに分け教職員役と児童生徒役(参観者)になって、事故発生から救急隊へ引き継ぐまでの一連の流れをシミュレーションする方法である。実技訓練の際には事故発生現場と職員室の動きを動画で撮影し、振り返りに活用するとより効果的である。実技訓練後には参加者全員で振り返りを行い、気づきや改善点について意見を出し合い、その後に関を代入替えて再度実技訓練と振り返りを行う。

図上訓練は、繁忙期においても短時間で効果的な訓練になるよう考えたものである。図上訓練 1 は、事故発生から「救命アクションカード」で役割分担する直前の動きを具体的にイメージするため、「第一発見者の動き」、「連絡を受けた人の動き」、「事故発生現場に到着した時の動き」の 3 つの場面についてグループワークする方法である。図上訓練 2 は、事故発生から救急隊に引き継ぐまでの流れを自校の校舎配置図上で誰がどのように動くのかをシミュレーションする方法である。

どちらにおいても、発生場所や対応できる人数等を変更したり、各校の特徴を踏まえた場面設定にしたりすることで、臨機応変な対応がイメージできることをねらいとしている。

(3) 参加者の感想より

毎回研修の最後には Google フォームで訓練の評価を行っている。初めて参加した教職員は、「訓練とはいえ、自分がどう動くべきか冷静に考えることはとても難しいと実感した。」、「何となく対応の流れを分かったつもりだったが、実際にやってみると何もわからなかった。」、「イメージしていたよりも、いろいろなことを同時に行わなければならないことが分かった。」と、動きのイメージが出来ていたにもかかわらず、思うように動けなかったことを実感する感想がほとんどであった。しかし、何度か研修を受けている教職員は、「何回やっても安心ではないが、その都度考えて行動できるようになっている。」、「初めてではないのに、スムーズに動くことができない部分があった。」、「今回のように少人数で対応する練習をしておくことは大切である。」と、確実に冷静な対応ができるようになっていくことが分かる。研修は時間にすると 10 分以内の短時間の訓練ではあるが、実際に動くことで新たな課題に気づき、何より緊急時の対応を自分事として捉えるきっかけになっている。

また、訓練の方法については、「動画を見ながら客観的に自分たちの行動を振り返ることができるのがよい。」、「全員ですぐに振り返りをすることがとても有効。」、「動画で確認するのは有効な手立てだと思う。改善点を確認し、役割を変えて繰り返すのはとても良い流れだと思う。」と研修内容について評価する感想が多かった。

5 結びに

実践当初は、「救命アクションカード」があれば、緊急時に誰でも対応できると考えていた。しかし、訓練を行ってみるとカードがあるだけでは連携した救命行動にならないことが分かった。参加者の感想からも、多くの教職員は

心肺蘇生のスキルがあればスムーズな連携がとれると思っていたが、実際に動いてみると瞬時に判断しなければならないことが多く、迷いのない救命行動を行うためには継続的な訓練が必要であることを感じている。

「救命アクションカード」はあくまで緊急時に役立つ補助的なツールであり、重要なことは事故発生から救急搬送までのスムーズな連携である。今日、明日にでも発生するかもしれない緊急時に、教職員が冷静に自信を持って救命活動を行えるよう、この訓練が各学校で毎年実施されるようになることを願っている。

(参考文献)

・「アクションカードを導入した救命救急～組織的に動ける危機管理体制づくり～」

出雲市立灘分小学校 足立 沙織 / 出雲市立第一中学校 清水 千景 / 出雲市立消防本部 吉井 友和

2014.4 P40～43、2014.5 P38～41

・平成 25 年度救命救急の高度化の推進に関する調査研究事業

「アクションカードを取り入れた新しい救命講習会を保育園・幼稚園を含めた学校・会社・大型店舗で行い救命の連鎖を強固にする方策」 出雲救命講習改善委員会

・「全職員の危機管理意識の向上と緊急時の適切な対応を目指した体制づくり～食物依存性運動誘発アナフィラキシー発生時の対応の検証から～」 三重県四日市市立山手中学校 養護教諭 萩 美穂

・「体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKA モデル～」 さいたま市教育委員会

(協力・助言指導)

宮城県東部教育事務所 指導班

救命アクションカード活用フロー

第一発見者

1. 状況を把握する

- ☐ 反応の有無を確認
- ☐ 呼びかけに反応しない→意識なし

2. 大声で人を集める

- ☐ 「緊急カード」を近くにいる人に渡し、職員室に届ける。
- ☐ 周囲の児童生徒に静かに座っているように指示する。

3. 呼吸を確認する

- ☐ 「胸や腹が動いている」→呼吸あり
- ☐ 「胸や腹が動いていない」
「しゃくりあげるような不規則な呼吸」→呼吸なし・分からない

呼吸なし・分からない なら

ただちに心臓マッサージと人工呼吸を開始

「胸の真ん中」を「5cm沈むくらい」の力で
「100～120回/分」のテンポで、「絶え間なく」行う。
心臓マッサージ：人工呼吸 = 30：2

「緊急です！」

()にすぐ来てください！

(ウラをみて確認)

① リーダー

- 1 リーダーであることを宣言する！
- 2 救命アクションカードを配付する！

(ウラをみて確認)

② 救急車要請

現場で119番通報する！

(ウラをみて通報)

③ 記録

リーダーの脳で情報を記録する！

- ☐ 事故発生状況について、家庭連絡係と共有する。
- ☐ 「誰が、何時に、何をしたか」を細かく記録する。

(ウラをみて確認)

④ 手当て

必要な手当てを複数で行う！

- ☐ 心臓マッサージと人工呼吸は「30：2」で1セット。
※子どもの救命には、人工呼吸が必須
- ☐ 2分間（5セット）を交代の目安にする。

(ウラをみて確認)

⑤ 家庭連絡

保護者に連絡する！

- ☐ 事故発生状況について記録係と共有し、確認する。
- ☐ 分かっていることのみを正確に伝える。

(ウラをみて電話)

⑥ 誘導者

**校門前へ誘導に向かう！
救急隊員を現場へ誘導する！**

⑦ 他の児童生徒の管理

安全な場所に移動させる！

(ウラをみて確認)

1 第一発見者

状況を把握し、大声で人を集め、救急処置を開始する。

第一発見者

1. 状況を把握する

- ☐ 反応の有無を確認
- ☐ 呼びかけに反応しない→意識なし

2. 大声で人を集める

- ☐ 「緊急カード」を近くにいる人に渡し、職員室に届ける。
- ☐ 周囲の児童生徒に静かに座っているように指示する。

3. 呼吸を確認する

- ☐ 「胸や腹が動いている」→呼吸あり
- ☐ 「胸や腹が動いていない」
「しゃくりあげるような不規則な呼吸」 } →呼吸なし・分らない

呼吸なし・分らない なら

ただちに心臓マッサージと人工呼吸を開始

「胸の真ん中」を「5cm沈むくらい」の力で
「100～120回/分」のテンポで、「絶え間なく」行う。
心臓マッサージ：人工呼吸 = 30：2

※ 名刺サイズにし、各自のネームホルダーに入れておく。
または、教室内の目につくところに掲示しておく。

★ポイント① 事故の状況把握と心肺蘇生法を行う。

- ・反応の有無を確認し、事故の状況を把握する。
- ・「普段通りの呼吸がない」「わからない」場合は、直ちに心肺蘇生法を行う。

★ポイント② 『緊急です!』カードで人を集める。

- ・()内は、その教室の名称を記入する。
- ・各クラス入口の横に掲示しておく。特別教室にも掲示しておく。
- ・大声で人を集めるとともに、児童生徒に『緊急です!』カードを職員室や近くの職員に届けさせ応援を呼ぶ。



2 応援者

AED、救急処置グッズ、携帯電話を持って、現場に向かう。

(オモテ面)

「緊急です！」

()にすぐ来てください！

(ウラをみて確認)

(ウラ面)

「緊急です！」

受け取った人は

- ① 職員室内に大声で知らせる。
- ② 職員はすぐに現場に駆け付ける。
- ③ 以下の物を持って現場に向かう。

AED  設置場所 ()
救急処置グッズ (救命アクションカード)
携帯電話は各自で持つ

★ポイント 受け取った職員が大声で他の職員に知らせる。

- ・どこで、〇年〇組の誰が、どうなっているか知らせる。
- ・AED、救急処置グッズ、携帯電話、生徒指導票を持つように指示。
- ・「AED持ちます」等、声出し確認を行い、現場に向かう。
- ・携帯電話は各自で持参する。

救急処置グッズ(例)

- 人工呼吸用携帯マスク
- 救命アクションカード
- タオル
- 保温用シート
- ゴム手袋

※対応が可能なら

保温用毛布 担架 ペンライト など

3 事故発生現場

救命アクションカードで役割分担し、救命処置を行う。

★ポイント① 現場にいる人の中からリーダーを決める。

- ・管理職が不在の場合は、誰でもリーダーになりうる。
- ・状況を把握している第一発見者がリーダーになると、連携がスムーズな場合もある。

★ポイント② リーダーは救命アクションカードで役割分担する。

- ・カードの番号は優先順位を示す。
- ・裏面の救命行動を確実に行う。

★ポイント③ 職員は全体を意識し、自ら行動する。

- ・リーダーの指示待ちではなく、自ら「〇〇します」と役割を担う意識を持つ。

① リーダー

- 1 リーダーであることを宣言する！
- 2 救命アクションカードを配付する！

(ウラをみて確認)

② 救急車要請

現場で119番通報する！

(ウラをみて通報)

③ 記録

リーダーの脳で情報を記録する！

- ☐ 事故発生状況について、家庭連絡係と共有する。
- ☐ 「誰が、何時に、何をしたか」を細かく記録する。

(ウラをみて確認)

④ 手当て

必要な手当てを複数で行う！

- ☐ 心臓マッサージと人工呼吸は「30：2」で1セット。
※子どもの救命には、人工呼吸が必須
- ☐ 2分間（5セット）を交代の目安にする。

(ウラをみて確認)

⑤ 家庭連絡

保護者に連絡する！

- ☐ 事故発生状況について記録係と共有し、確認する。
- ☐ 分かっていることのみを正確に伝える。

(ウラをみて電話)

⑥ 誘導者

校門前へ誘導に向かう！
救急隊員を現場へ誘導する！

⑦ 他の児童生徒の管理

安全な場所に移動させる！

(ウラをみて確認)

① リーダー(現場の責任者)

★ポイント 事故の状況を把握し、救命アクションカードで役割を指示する。

- ・カードを番号順に渡す。対応できる人数によって、一人が数枚あるいはい一枚に数人で対応する。
- ・チェック表を基に、漏れのない対応になっているか確認する。

① リーダー（チェック表）

② 救急車要請	③ 記録	④ 手当て
現場で119番通報する！  ✓ (ウラをみて連絡)	リーダーの脳で情報を記録する！ ☐ 事故発生状況について、家庭連絡係と共有する。 ☐ 「誰が、何時に、何をしたか」を細かく記録する。 ✓ (ウラをみて確認)	必要な手当てを複数で行う！ ☐ 心臓マッサージと人工呼吸は「30：2」で1セット。 ※子どもの数によっては、人工呼吸が必要 ☐ 2分間（5セット）を交代の目安とする。  ✓ (ウラをみて確認)

(才モテ面)

① リーダー

- 1 リーダーであることを宣言する！
- 2 救命アクションカードを配付する！

(ウラをみて確認)

(ウラ面)

① リーダー

- ☐ 第一発見者と手当てを交代できる人を指名する。
- ☐ 第一発見者から事故状況の報告を受ける。

- 1 状況を確認後、救命アクションカードを配付し、役割を指示する。
- 2 各進捗状況を大きな声で報告するように指示する。

- ☐ 全体の動きを確認し、各係からの報告を記録係に記録させる。

② 救急車要請

★ポイント 事故現場から通報する。

- ・携帯電話で、傷病者の状態を確認できる場所で通報する。
- ・通報時に分からないことは「分からない」と伝える。
- ・対応に不安がある場合は、スピーカー機能を利用し、救急隊到着まで指示を受ける。
- ・発生場所が遠い場合は、通報しながら分かる概要を伝え、到着次第詳細を伝える。

(オモテ面)

② 救急車要請

現場で119番通報する！

(ウラをみて通報)

(ウラ面)

② 救急車要請

①火事ですか？救急ですか？
→救急です。

②場所はどこですか？
→（ ）学校（住所は ）です。

③救急車の必要な人の名前と年齢を教えてください。
→（学年，性別，名前）

④どうしましたか？
→（どこで，どうして，どうなった）

⑤どんな様子ですか？
→（意識，普段通りの呼吸，けいれんの有無）

⑥最後に，あなたの名前と電話番号をお願いします。
→（職名）（名前 ）電話番号は（ ）です。

⑦救急車が近づいたら，誘導をお願いします。

通報したら，リーダーに報告する(通報時刻も含む)

③ 記録

★ポイント 時刻とともに状況を記録する。

- ・リーダーのそばで事故発生状況を記録する。
- ・対応や状況について時刻とともに記録する。(例:AEDを行った時刻)
- ・傷病者が複数の場合は搬送先も複数になることがあるので、誰がどこに搬送されたかを明確にする。

(時系列の記入例)てんかん発作

時刻	状態・対応等
13:45	呼びかけに反応なし。全身が硬くなり、ガクガクと震える。両目は瞬きせず、黒目は左側を向いたまま。救急車を要請。
13:50	口から泡を吹いた。顔を横向きにする。毛布にて保温。
13:57	救急車到着。
14:01	救急車出発。同乗者は養護教諭。搬送先(日赤)を保護者に電話連絡。

(ウラ面)

③ 記録			
被災生徒	年 組 名前	年 月 日生	
発生時刻	月 日 ()	時 分	
発生場所	場所 () 第一発見者 ()		
119番通報	時 分 (到着 時 分)		
応急処置	AED使用 ① 時 分 ② 時 分		
家庭連絡	時 分 (母・父・祖父母・その他 () (学校着・病院着)		
搬送先	病院	同乗者 ()	
既往症	／かかりつけ医 ()		
その他生徒の対応			
(いつ・どこで・何をして・どうなった)			
救急隊に伝えたら、リーダーに報告する			

④ 手当て

★ポイント 第一発見者と一緒に手当てを行う。

- ・可能であれば、複数人で行う。
- ・状態に変化があるときはリーダーに伝える。

(オモテ面)

④ 手当て

必要な手当てを複数で行う！

- ☐ 心臓マッサージと人工呼吸は「30：2」で1セット。
※子どもの救命には、人工呼吸が必須
- ☐ 2分間（5セット）を交代の目安にする。

(ウラをみて確認)

(ウラ面)

④ 手当て

1. 出血の場合

- ① 傷口にタオルを当て、上から強く押さえる。
- ② 拍動性の出血であっても、落ち着いて時間をかけて圧迫する。

2. 頭部打撲の場合

- ① 頸椎損傷の可能性がある。動かさない。
- ② 呼吸・脈の確認、手足にしびれや麻痺、呼びかけても反応がない、けいれん、耳や鼻からの出血や透明な液（髄液）が出ている、瞳孔の左右差は速やかに119番

3. てんかん発作(けいれん発作)の場合

- ① 横にして、周囲の危険物を遠ざける。
- ② 発作時刻の確認と状態の確認。
- ③ 水中の場合は、体を支えて顔を水面から出す。無理に引き上げない。
- ④ 発作後に眠ってしまったら、寝かせておく。
- ⑤ 発作後、嘔吐の危険を考え、顔は横向きにする。（発作中口内には何も入れない）

行った手当てや状況は、逐次リーダーに時刻とともに報告する

⑤ 家庭連絡

★ポイント 正確な情報を冷静に伝える。

- ・重大事故が発生し応急手当を行っていること、救急車を要請したことなどを正確に伝える。
- ・不確かな情報は伝えず、分かっていることのみを伝える。
- ・保護者が冷静になれるように、「落ち着いてくださいね」という言葉をかける。

(オモテ面)

⑤ 家庭連絡	
保護者に連絡する！	
☐	事故発生状況について記録係と共有し、確認する。
☐	分かっていることのみを正確に伝える。
(ウラをみて電話)	

(ウラ面)

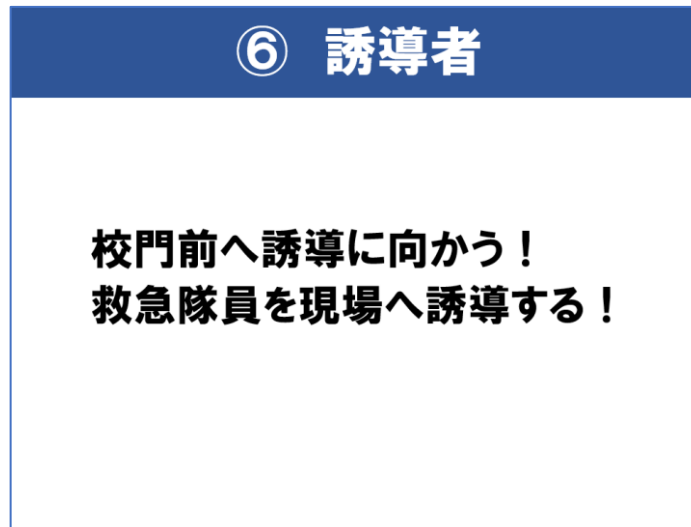
⑤ 家庭連絡			
第一報			
「() 学校の () です。」			
「() 年 () さんの () ですか？」			
★状況を正確に伝える。	いつ		
	どこで		
	★分かっていることのみを伝える。	何をして	
		(誰と)	
		どうなった	
	現在の対応	救急車で病院に搬送します。	
アレルギーや既往症はありますか？			
(学校にすぐに来られる場合)	「落ち着いて焦らずに学校までいらしてください。」		
(すぐには来られない場合)	「搬送する病院が決定次第、再度ご連絡します。保険証と子ども医療受給者証の準備をお願いします。」		
第二報			
「() 病院に搬送します。「保険証」と「子ども医療費受給者証」「診察券」があれば、病院に持参してください。何時くらいに到着できそうですか？」			
「学校からは () が付き添います。では、落ち着いて病院までいらしてください。」			
連絡したこと、連絡時刻を、リーダーに報告する			

⑥ 誘導者

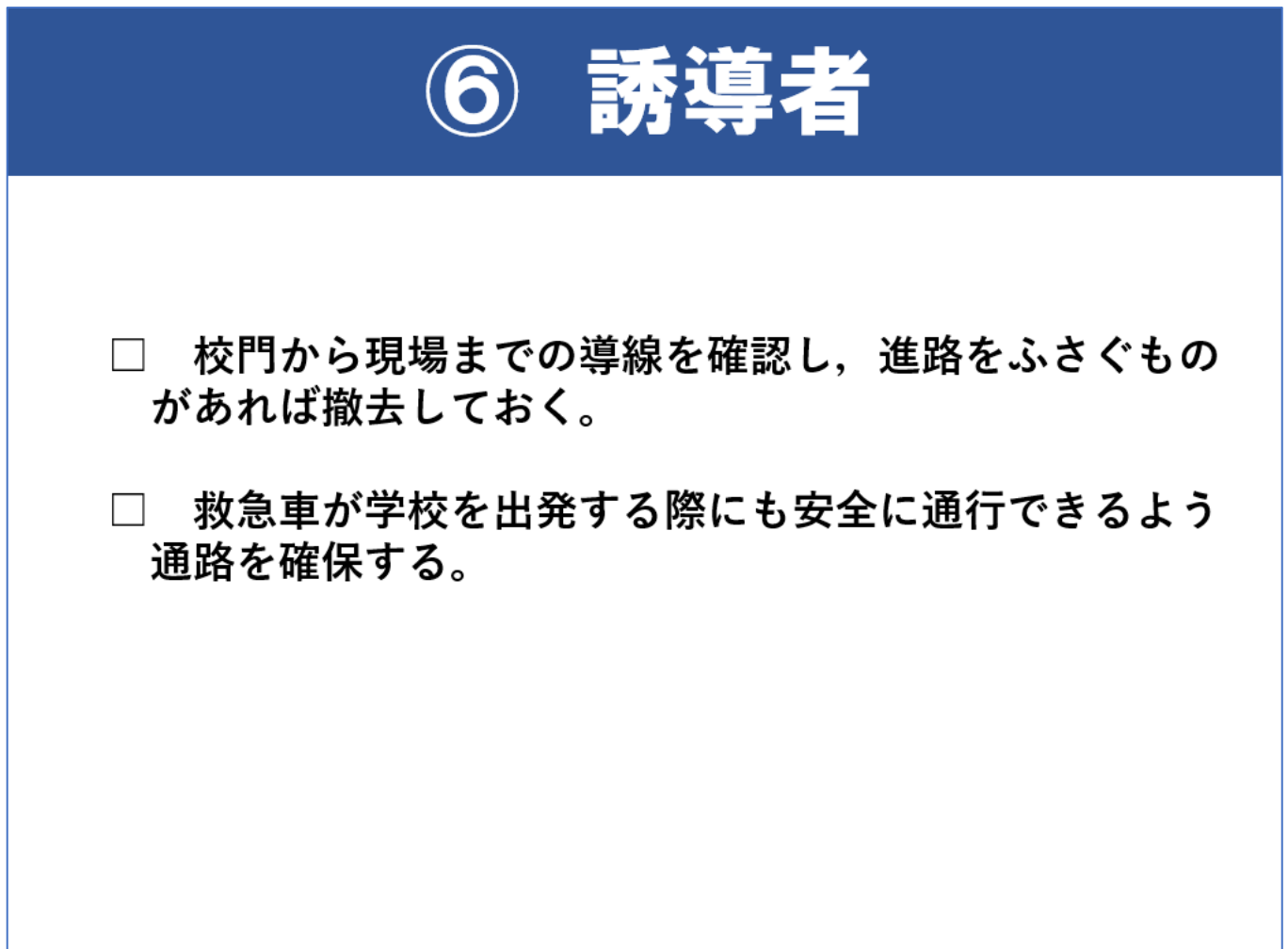
★ポイント 救急隊の進入経路を確保する。

- ・現場への進入経路を確認し、救急車を誘導する。

(オモテ面)



(ウラ面)

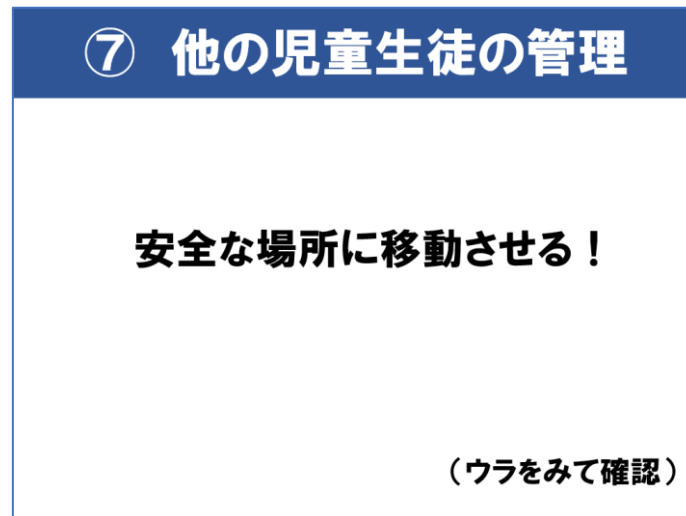


⑦ 他の児童生徒の管理

★ポイント 他の児童生徒の安全を確保する。

- ・動揺や混乱を避けるため、現場から遠ざける。
- ・伝えられる範囲で児童生徒に正確な情報を知らせる。

(オモテ面)



(ウラ面)

